

駅・商店街・城を “売り”に

株式会社 Record China 代表取締役社長

八牧浩行さん

Hiroyuki Yamaki



静岡市出身で東京を拠点に内外で活躍している皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

国内最大の中国情報サイト

通信社経済部記者時代に培った幅広い人脈。2010年、縁あって現職に就いた。Record Chinaは正確・公平かつ独自の目線のニュース写真を、日本、中国、シンガポールなど主にアジア地域に日本語と中国語でインターネット配信している、日本最大の中国情報サイト。今でこそ、知名度もぐんと上がったが、社長就任当時はまだ基盤が弱く、ほとんど無名に近かった。「中国のレコード会社ですか？なんて尋ねられたことも



経歴

静岡市駿河区出身。東京教育大学（現・筑波大学）文学部卒。1971年、時事通信社入社、ロンドン特派員、編集局経済部長、取締役社長室長、常務取締役編集局長などを歴任。2010年、Record China代表取締役社長兼主筆。取材、執筆、講演活動のほか、静中・静岡関東同窓会長を務める。65歳。
<http://www.recordchina.co.jp>

あった」と苦笑する。

大手メディアが報じない細かな出来事を丹念に拾うのも同社の特色の一つだ。YouTubeや日経テレコンなど主要メディアと提携。閲覧数は月間7千万ページビュー超と飛躍的に伸びた。「これからもIT先進ツールを活用して、新しいメディア像を発掘していきたい」。温和な語り口調の中にも社業に対する強い決意が伝わってくる。

1年半前から、異業種交流を後押ししている。参加者は首都圏在住の母校静岡OBが中心。「交流を通じ郷里の静岡にも

何か恩返しできれば」との思いもある。毎回40人程度が出席し、好評だ。

そぞろ歩くまち

静岡市のまちづくりについて、八牧さんは「家康公の天下泰平イメージを前面に、駅と街と城（駿府）を中心にしたコンパクト・シティをさらに推し進めたい」と提案する。

通信社のロンドン特派員として欧州をつぶさに取材し、教会、青空市、広場が賑わいの場として人々を往き来させていることを肌で感じた。「静岡市には1キロ圏内にJR・静鉄駅、呉服町などの商店街、城がある。これを売り物に、例えば休憩所を設けるなどして一層の賑わいを創出する。そぞろ歩きできる、或いはしたくなるまちとしてアピールするのいいのではないか」

「東京の人は理念、利便、合理的なものの憧れが強い。アジアの成長を取り込みつつ、静岡の人の泥臭くないイメージを逆手に取ってビジネスや商品展開を考えたらどうか」と語る。

昨年12月、「中国危機—巨大化するチャイナリスクに備えよ」（あさ出版）を刊行した。尖閣問題を巡って、大揺れの日中両国。チャイナリスクをチャイナチャンスに変えていく処方箋を提示し、中国の実像に鋭く迫った一冊だ。

（文・写真 長田義明）